

テクノスクール卒業生から後輩の皆さんへ

新潟県西蒲原郡西川町 佐藤自動車修理工場 佐藤 肇

1. はじめに

早いもので、県立新潟テクノスクールを卒業して、すでに6年が経とうとしています。さらに現在の仕事に就いて4年目を迎えようとしています。今回はテクノスクール時代に身に付けたことや今の仕事の様子などをお伝えしようと思います。現在、テクノスクールで勉強に励んでいる後輩の皆さんの今後の参考になれば幸いです。

2. これまでの経歴

私は平成8年4月に新潟県立新潟テクノスクール・自動車整備科に入校しましたが、他の入校生と異なり、以前勤務していた会社を退職してからの入校となりました。テクノスクールに入るまでは日産自動車（いわゆるメーカ）の神奈川県内の工場に勤務していましたが、家が自動車整備業をしている関係で稼業を継ぐことになり、自動車整備士の資格を取得するために自動車整備科に入ることになりました。日産自動車では、工場内の電力設備の保安計画・エネルギー予算管理などの業務をしていましたので、自動車に直接かかわることはなく、自動車メーカ出身とはいえ自動車整備に関する知識はほとんどないような状態でした。自動車整備科で2年間勉強することで国家2級整備士の資格を取得して、卒業後は地元の新潟日産自動車（ディーラー）で自動車整備士として平成12年3月末までの3年間仕事をして、その後佐藤自動車に入り、現在日々業務をこなしています。

3. 業務内容について

現在私は佐藤自動車で主に自動車整備士としての仕事をしていますが、それ以外にも「クルマ屋」としての業務はおもに下記のようなものがあります。

- ①新車販売
- ②中古車販売
- ③自動車保険取扱い
- ④車検整備
- ⑤定期点検整備
- ⑥一般整備
- ⑦事故車修理・板金・塗装
- ⑧部品・用品販売

まず、①新車販売は顧客の要望により新車を各ディーラーから仕入れて販売し、②の中古車販売は手持ちの中古車や各ディーラーから仕入れた車両を販売しています。当社は「自動車整備」を主な業務としていますので車両販売時の利益よりも、むしろその後の入庫（車検整備や一般整備）につながるという意味合いで車両の販売は重要になってきます。

③自動車保険は、自賠責（強制保険）と任意保険の2種類がありますが、車検を継続する際は自賠責の加入が必須となりますし、自賠責だけでは不足する部分を任意保険で補って、顧客が安心してクルマを運転できるように努めています。

④車検はクルマの種類により1年あるいは2年ごとに受けることが義務付けされていますので、車検を継続しない限り車両を運行することができなくなります。法律で義務付けされているので必ず受けなくてはいけないもので、入庫が確実な仕事ではありますが、その一方他社との価格競争に巻き込まれやすい仕事でもあります。特に車検を専門とする「ニューサービス」と呼ばれる業者等の参入により価格

面で比較されやすく、自動車整備業としては「整備＋保証付き」で次回車検まで安心して使用できる点を理解してもらいながら、車検整備をお引き受けするような状態になっています。

⑤定期点検整備—車種により6カ月・12カ月ごとに車両の決められた部位の点検整備を行います。

⑥一般整備は車検・定期点検以外の整備で、壊れたり調子の悪いところを修理する、自動車修理業の主たる業務で、実際の扱台数も一番多い仕事です。

⑦事故車修理・板金・塗装—事故が起きてしまった場合、当社は外注作業になりますが、顧客から事故車を預かって板金・塗装等の事故車の修理を行っています。

⑧自動車部品・用品販売—自動車に付随する部品や用品（具体的にはタイヤ、バッテリーやカーオーディオ、カーナビ等）の販売や取り付けを行っています。

4. 今後の課題

現在は日々クルマを直すことに追われていますが、今後仕事を進めていく上で次のようなことに取り組んでいきたいと考えています。

① 新規顧客の開拓

自営でサービス業をやっている方なら思い当たるのではないのでしょうか。店側と顧客との付き合いが長く、距離が近付くのは良いことなのですが、店を経営している親の年齢が上がるにつれて顧客も高齢化している現状があります。具体的には親と同年代の顧客は多くても、その子どもの年齢層の顧客が定着していないのです。原因としてやはり店側にも若い人間がいないことで、その世代の顧客の考えや、店に求めているものが理解しにくいところがあったように思います。まずは店の敷居を低くして、気軽に若い人が入ってきやすい雰囲気から作っていきたいと考えています。

② 車検整備の対応

現在当社では、周辺各社との共同で民間車検場を運営し、そこで車検整備を行っています。納期やコストの面で指定工場（単独1社の民間車検工場）に遅れがちな面もあり、顧客の満足度を考えると、今後とも改善の必要な面が多々あります。例えば車

検日数に関しても、車検専門店や各ディーラー等でも「1日車検」やさらに短い時間でのサービスを提供しています。顧客の側でもたとえ代わりのクルマがあったとしても、短期間で車検を取りたいという要望が多くなってきているように感じます。周辺各社との協議も必要となりますが費用と納期を意識した車検がますます重要になってきています。

③ 定期点検整備の促進

車検は必須であるがために、他社との顧客獲得競争に巻き込まれやすく、価格の面でも比較されます。車検と車検との間に本来受けるべき定期点検は、自社で車検を受けたクルマであれば他社との競合も比較的少なく、顧客の囲い込みといった面からも有効な商品であると思います。さらに最近の経済情勢から1台のクルマの使用期間も伸びてきて、10年・10万kmを超えて使われているクルマも珍しくなく、そのような状態のクルマにも安心して乗ってもらうためにも、適切な点検をお勧めするべきではないでしょうか。

④ クリンネスの徹底

以前のクルマ屋は「汚れていても仕方ない」といった状態でしたが、実施する作業内容は汚れやすくても工場・事務所を清潔に、そしてもちろん顧客のクルマを汚さない、むしろ入庫時よりもキレイにしてお返しするように努力していきたいと思います。

⑤ 整備技術の向上

自動車の技術も日々進歩して、現状ではコンピュータを用いた電子制御部品はもとより、ハイブリッドカーなども市場に出回っています。今後は電気自動車や燃料電池車も普及すると思われ、新しい技術を身に付けることがますます重要になってきています。ディーラーと異なりメーカーから技術指導の少ない「町工場」ではありますが、勉強できる機会をとらえて新技術を持つ車両の整備にも対応できるようにしていきたいと考えています。当面は「国家一級整備士」の資格取得を目標にしています。

「仕事＝早く、キレイに、気持ち良く。そして安く」これを目標にして日々仕事に取り組んでいきたいと考えています。

5. テクノスクールでの過ごし方

私はいったん社会人を経験してから、テクノスクールに入ったため、「国家二級整備士の資格取得」という目標はありましたが、2年間勉強だけに専念できる環境は非常に快適なものでありました。社会人の方なら、仕事をしながら勉強する大変さは十分、わかっただけだと思います。私は2年間は勉強だけすればよい状態でしたので、当初は気楽なものでした。ただ周りの生徒とは10歳程年齢が離れていたので、微妙に立場の違いを感じていました。正直なところ1年目は適当に仲良くやってる感じで過ごしていましたが、2年目になり就職活動や資格試験への追い込みの時期となると自分のことだけでなく、周りの人達の面倒も見られるようになってきました。というのも、その当時2年生担任の先生が「熱血先生」で生徒の指導に非常に力を入れていました。やがて私も影響を受けて自分のことだけでなく、周りの同級生の勉強の成果がどうやったら上がるのか、先生と同級生の間に立って自分なりに一生懸命取り組みました。

テクノスクールは1クラスが25名程でしたのでまとまり感も良く、結束して国家試験合格という目標に向かって勉強することができました。それでも中にはなかなか集団生活に馴染めずはみ出してしまう生徒もいましたが、そんな時でもクラス全員で話し合いをして、どうしたらうまくいか熱く討議したりしました。

私は学生時代から会社へ勤めた10年間、良くも悪くも個人主義的な考えで勉強したり仕事をしたりしてきました。もちろん会社の業務は上司の指示によって求められた結果を出すわけですが、プロセスは自分の考え次第ですし、それこそ頭の中は何を考えても自由なわけです。そのような状態から、テクノに入ったので、戸惑いも多少ありましたし、何よりも自分ひとりのことを考えてるほうがずっと楽でした。しかしそのうち先生方のクラスを良くしたいという情熱に動かされ、それ以降日々クラスのために自分のできることを見つけ、それを実行してきました。そのとき人を教えたり叱ったりすることの大変

さ、いかにエネルギーが必要か、またそれを継続していくことの苦勞を身に染みて感じることができました。それが私がテクノスクールで学んだ一番大きなことのように今、感じています。テクノスクールに入らなければ、そのことはなかなか気が付かなかったと思います。そういう意味ではテクノスクールは単なる知識・技術・技能習得の場所ではなく、「人格形成」の場所であるといえると思います。もちろんそのためには教室や実習場などの設備も必要ですが、そこで指導する先生方の努力と情熱なしには成立しないことを身をもって理解することができました。

6. 後輩の皆さんへ

学生時代の友達は、会社に入ってからできる友人とはまた違って、腹を割って本音で話のできる良さがあります。また自動車整備科の場合は自分が就職した所以外のクルマを扱ったときなどは、気軽に友達に問い合わせしたり、情報交換できたりそういった時にも重宝したりします。ただやはり「友人」として長く付き合える人と知り合うのはその人の「財産」となります。実際私もテクノスクールのときに、同級生にたくさんお節介ともいえるほど世話を焼いたりしましたが、そのおかげでしょうか年齢が離れていても今でも交流をして（させてもらって?）います。

そして今私が仕事に取り組むとき原点となっているのは、学生時代の「自由な発想」と、会社生活で身に付けた「段取り」と、テクノスクールで学んだ「情熱」—この3つだと感じています。そしてテクノスクールで培った情熱をこれからも持ち続けて、お客様に喜んでもらえる仕事をしていきたいと考えています。

後輩のみなさんも、まずは卒業や就職など目の前の目標に集中して納得のいく結果が出せるように、そしてもし卒業した先輩などに会って話をする機会があれば、その先の就職してから5年後、あるいは10年後にこんな社会人になっていたい—そんな具体的なイメージをふくらませて、それぞれの夢や目標に向かってチャレンジしてみてください。やがて君達が主演となる日が必ず来るのですから。